

2022 年度公開シンポジウム

異質な視点を持つ他者との対話を実現する授業

——with コロナ時代における小学校教育の現状と発展可能性——

- 企画 : 日本教育心理学会 研究委員会
企画趣旨説明 : 田島充士（東京外国語大学）
異質な視点を持つ他者との対話と同質な視点を持つ仲間との会話
——バフチンの対話理論からみた対話教育の展開可能性
- 話題提供 : 稲井雅大（大阪市立大江小学校）・田島充士（東京外国語大学）
小学校における対話教育の可能性とその展開
——1 年生活科「学校しょうかい」物語を軸にして
- 話題提供 : 町 岳（静岡大学）
動機づけと自己調整の視点からみた対話指導
- 話題提供 : 伊佐貢一（早稲田大学）
教室での対話を支える学級集団づくり
- 話題提供 : 武藤成也（会津若松市教育委員会／会津大学）・
苅間澤勇人（会津大学）
ICT と対話教育
- 指定討論 : 鹿毛雅治（慶應義塾大学）
指定討論 : 楠見 孝（京都大学）
司会 : 河村茂雄（早稲田大学）

企画趣旨：

新学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」が唱われてから、学校現場では「対話」を意識した授業展開が模索されている。対話に参加するための能力は、異文化交流が必要となるグローバル化社会において必須のものであり、直接的な交流が制限されている現在のコロナ状況において、学校現場で育成することの価値は、一層高まっている。だが、対話の捉え方については様々な意見が錯綜し、一致を見ない状況にある。そこで本シンポジウムでは、対話を「多様な視点や立場を持つ他者との話し合い」と大きく捉え、異質な視点を持つ他者とも対話が実現しそれが学びとなるような、小学校における対話教育の展開可能性について検討を行う。小学校現場の現状と、対話を実際に教室内で実現する協働学習の展開について、4 件の話題提供をいただき、指定討論者を交えて討論する。本シンポジウムの参加者一人ひとりがそれぞれの実践現場において、児童たちの集団での学び合いを促進し、コロナ状況の閉塞感を打開する知恵を引き出すきっかけになればと願う。